

令和元年度(第74回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加公演)

演劇部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—
	(関西参加公演の部) 人形劇団クラルテ	近松人形芝居「女殺油地獄」の成果
優秀賞	(関東参加公演の部) ウォーキング・スタッフ	「三億円事件」の成果
	(関東参加公演の部) 音無 美紀子	「風を打つ」における演技
	(関西参加公演の部) 万博設計	「リボルバー」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) 山田 裕貴	「終わりのない」における演技
	(関西参加公演の部) くるみざわ しん	「忠臣蔵・破 エートス／死」の脚本

音楽部門5件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—
	(関西参加公演の部) 郷古廉 加藤洋之	「土と挑発:郷古廉&加藤洋之 デュオリサイタル」の演奏
優秀賞	(関東参加公演の部) 常磐津都毘蔵	「常磐津都毘蔵研究会」の成果
	(関東参加公演の部) 照喜名朝國	「照喜名朝國独奏会」の成果
	(関西参加公演の部) 窪田 健志	「窪田健志 打楽器リサイタルvol.4」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) 萩岡 松柯	「萩岡松柯リサイタル」の成果
	(関西参加公演の部) 該当なし	—

舞踊部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 東京バレエ団	「東京バレエ団2019 勅使川原三郎/ベジャール/バランシン」の成果
	(関西参加公演の部) 地主黨バレエ団	地主黨バレエ団公演「人魚姫」の成果
優秀賞	(関東参加公演の部) 藤間 清継	「藤間清継舞踊リサイタル」の成果
	(関西参加公演の部) 全京都洋舞協議会	「60周年記念公演」における「カルミナ・ブラーナ」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) スズキ 拓朗	おどる童話「AZUKI」の成果
	(関西参加公演の部) 春木 友里沙	法村友井バレエ団公演「海賊」における演技

大衆芸能部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 琉球芸能大使館	「五月九月」の成果
	(関西参加公演の部) 該当なし	—
優秀賞	(関東参加公演の部) 内藤 和美	「内藤 和美 読み語り」の成果
	(関西参加公演の部) 桂 梅團治	「桂 梅團治 芸歴四十周年記念独演会」の成果
	(関西参加公演の部) チョップリン	「蔵出しライブ vol.2」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) 藤山 大樹	「江戸手妻 東京公演2019」の成果
	(関西参加公演の部) 桂 雀太	「桂 雀太 独演会」の成果

令和元年度(第74回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加作品)

テレビ・ドラマ部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	日本放送協会	土曜ドラマ「サギデカ」
優秀賞	日本放送協会	土曜ドラマ「デジタル・タトゥー」
	日本放送協会	「スローな武士にしてくれ ～京都 撮影所ラプソディー～」
	東北放送株式会社	TBCテレビ 60周年記念ドラマ 「小さな神たちの祭り」

テレビ・ドキュメンタリー部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	日本放送協会	BS1スペシャル「ボルトとダシャ～マンホールチルドレン20年の軌跡～」
優秀賞	日本放送協会	BS1スペシャル「ボクの自学ノート～7年間の小さな大冒険」
	株式会社CBCテレビ	「土がくる～規制なき負の産物の行方」
	福井テレビジョン放送株式会社	福井テレビ開局50周年記念番組 「聖職のゆくえ～働き方改革元年～」

ラジオ部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	日本放送協会	FMシアター「エンディング・カット～私たちが選んだ最後の家族の時間～」
優秀賞	RKB毎日放送株式会社	「SCRATCH 差別と平成」
	青森放送株式会社	「あなたと見た風景 ～目の見えない初江さんの春夏秋冬～」
放送個人賞	秀島 史香	「文豪ROCK! ～眠らせない読み聴かせ 宮沢賢治編」の朗読

レコード部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	クレアシオン	古典四重奏団「シヨスタコーヴィチ 弦楽四重奏曲全集」
優秀賞	サクソフォン×邦楽器×現代音楽実行委員会	「大石将紀／SMOKE」
	株式会社キングインターナショナル	「イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」
	公益財団法人日本伝統文化振興財団	「野澤徹也／杵屋正邦作品集」

令和元年度(第74回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加公演)

演劇部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—	—
	(関西参加公演の部) にんぎょうげきだん 人形劇団クラルテ	ちかまつにんぎょうし ぼい おんなろしあぶらじ ごく 近松人形芝居「女殺油地獄」の成果	クラルテは、1973年に「女殺油地獄」を初演して評価を得ているが、デフォルメされた河内与兵衛の造形は「内側に秘めているものが、ゆがみとして外に出ている」(演出・潤色のふじたあさや)のに加え、今回は立体的な効果を出す三面舞台の効果もあり、人形と人形遣いとが共に大きな存在感を発揮。カオスとしての人間像にたどり着き、近松劇の未知の魅力を探り当てた。
優秀賞	(関東参加公演の部) ウォーキング・スタッフ	さんおくえんじけん 「三億円事件」の成果	本作は、捜査員同士の衝突が解決への意志へと収れんし、徐々に事件の背景が開示されていく物語を、緊迫した会話によって構成した上質の会話劇でありミステリである。劇場の特性を活かした空間演出と俳優陣の熱量の高い演技は、時効間近の捜査本部という閉塞的な極限状況と、権力・正義・尊厳といった重層的な主題とを見事に表現した。
	(関東参加公演の部) おとなし 音無 美紀子	かぜ う 「風を打つ」における演技	実在の水俣病の患者家族をモデルにした作品で、世間の差別にもひるむことなく果敢に挑む強い女性、子供にあふれる愛情を注ぐ母親、夫に寄り添い引っ張る妻である杉坂栄美子をきめ細かく演じた。ドラマ、舞台の第一線で50年以上も活躍し、女優として積み重ねた経験が、見事に花開いた。泣き笑いに満ちた、圧巻の演技だった。
	(関西参加公演の部) ばんぼくせつけい 万博設計	「リボルバー」の成果	日常に蓄積するストレスを、犯罪行為の緊張によって排泄する。非日常の道具であるリボルバーの銃弾は何を射抜くのか。故・大竹野正典が仕掛けた屈託に、演出者は独自のスタイルでアプローチしてゆく。センスの良い舞台展開が観客の心を引き付ける。小劇場系の腕達者を集めた演技陣が充実し、優れた舞台を作り上げていた。
新人賞	(関東参加公演の部) やまだ ゆうき 山田 裕貴	「終わりのない」における演技	「オデュッセイア」を原典とした壮大な物語の中で、山田裕貴は生身の青年の内面をてらいなく舞台に乗せ、過去と32世紀が行き来するSF的物語を現代の客席と地続きなものにした。時空の旅に翻弄されながらも成長していく姿は、本人に重なり、秀逸な美術、照明、音響なども世界観を支えた。俳優という終わりのない旅での更なる成長が期待できる。
	(関西参加公演の部) くるみざわ しん	ちゅうしんぐら は 「忠臣蔵・破 エートス／死」の脚本	名作戯曲を再構成するシリーズ。くるみざわは、元禄年間に実際に起きた事件を題材にした「忠臣蔵」を基に、赤穂城の明渡しから吉良邸討ち入り、吉良の首級を挙げるまでを江戸幕府と赤穂藩の政治劇として構成。史実を織り交ぜながら、社会全体の価値感の移り変わりや権力に対抗する人々の姿、武力、金銭、世論など、今の時代とリンクする物語として描いた点が光った。風刺劇としても面白く仕上げられた脚本であった。

音楽部門5件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—	—
	(関西参加公演の部) 郷古廉 加藤洋之	「土と挑発:郷古廉&加藤洋之 デュオリサイタル」の演奏	「土と挑発」は、演目の3つのソナタが両大戦へのヤナーチェク、プーランク、バルトークの反応であることを指す(企画・構成:伊東信宏)。郷古廉(ヴァイオリン)と加藤洋之(ピアノ)のアグレッシブな応酬は、企画にふさわしい禁欲を突き抜けて、室内楽特有の対話の愉楽を実現した。この演奏芸術としての達成が贈賞の対象である。
優秀賞	(関東参加公演の部) 常磐津都呂蔵	「常磐津都呂蔵研究会」の成果	「仮名手本忠臣蔵」の通しを7年前から発表して今回は最終回だが、常磐津節には大詰めが残されていない。そこで、父・文之助が伝えていた「忠臣二度目清書」を研究復活し、元来視覚的効果の大きい討入りの場を後日談の中で語ることで聴覚的に完結させ、素浄瑠璃の魅力を存分に発揮し、聴く者を忠臣蔵の世界に引き込んだ手腕が高く評価された。
	(関東参加公演の部) 照喜名朝國	「照喜名朝國独奏会」の成果	「十七八節」をはじめとする琉球古典音楽の独唱曲を中心に、組踊、毛遊び、琉球舞踊も組み入れた構成は、企画性に富み、沖縄の音楽と芸能の魅力を十分に伝える内容であった。広音域の旋律を朗々と歌い上げる美声には柔らかみと張りがあり、三線の豊かな音色と相まって、曲ごとに異なる情感を引き出し、多彩な表現力で観客を魅了した。
	(関西参加公演の部) 窪田 健志	「窪田健志 打楽器リサイタルvol.4」の成果	副題に示す「打楽器の多様性」の世界を超絶的な技巧をもってフルに展開してみせた、密度の濃い演奏会であった。無伴奏ティンパニのための酒井健治委嘱作品を含め、それぞれ異なる8種類の打楽器群による8つの作品により、電子音響とのコラボを交えつつ、現代音楽の数々の新しい局面を示していった意義は極めて大きい。
新人賞	(関東参加公演の部) 萩岡 松柯	「萩岡松柯リサイタル」の成果	今年の初めに芸名を萩岡松柯と改めてから初のリサイタルとなった。正統派の山田流箏曲家として手中に取めておくべき3曲を取り上げた今回のプログラムでは、曲ごとに求められる表現の多様性を丁寧に描き分けた。天賦の才能と確かなテクニック、幅広い素養、探求心が一つの形を成したものと見え、将来への大きな期待を確信させる成果を挙げた。
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—

舞踊部門6件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(関東参加公演の部) とうきょう だん 東京バレエ団	とうきょう だん てしがわらさぶろう 「東京バレエ団2019 勅使川原三郎／ベジャール／バランシン」の成果	勅使川原三郎の新作とベジャール、バランシンの傑作という豊富な内容に、バレエ団が一丸となって挑み、極めて完成度の高い舞台に仕上げた。舞踊史に残る2作品を抜群の安定感で上演したことに加え、呼吸と動きが溶け合うような勅使川原振付と真摯に向き合い、音楽や照明と新鮮な響き合いを見せた団員の演技が高く評価された。
	(関西参加公演の部) じぬしかおる だん 地主薫バレエ団	じぬしかおる だんこうえん にんぎょひめ 地主薫バレエ団公演「人魚姫」の成果	童話「人魚姫」の世界を、洗練と楽しさの入り交じった演出、人魚姫役の奥村唯をはじめダンサー陣の確かな表現力で見事に描き出した。平成28年初演の再演だが、今回新たにプロジェクションマッピングを用いて海のシーンを幻想的に見せるなど細部に渡って練り上げ、全幕バレエにふさわしい美とスケール感のある舞台を創造した。
優秀賞	(関東参加公演の部) ふじま きよつぐ 藤間 清継	ふじまきよつぐぶよう 「藤間清継舞踊リサイタル」の成果	「過ぎし昔を想う風景」と題し、古典と創作の2題を上演。共に確かな技術に根差した豊かな表現力をもって活写した。「四季の山姥」は素踊りにより、四季の移ろいに重ねた山姥の来し方、そして今を鮮やかに描き出し、高い評価を得た。自身で作・振付の「去り行く劇場」は戦時下の芸能者の過去と現在に独自の魅力を織り交ぜた意欲作であった。
	(関西参加公演の部) ぜんきょうとようぶきょうぎかい 全京都洋舞協議会	しゅうねんきねんこうえん 「60周年記念公演」における「カルミナ・ブラーナ」の成果	京都市出身で、数々の名作を遺した振付家、故・石井潤の「カルミナ・ブラーナ」は、オルフ作曲の世俗カンタータを自由な発想でダンス化している。この作品を、様々な団体に所属するダンサーが一体となり、高い水準で上演した。故人の振付の再現にとどまらず、作品に新たなエネルギーが注ぎ込まれ、鮮烈な印象を与えた。
新人賞	(関東参加公演の部) すzuki たくろう スズキ 拓朗	どうわ あずき おどる童話「AZUKI」の成果	古びた日本家屋に暮らす大家族の複雑な関係性を、ざしき童子の存在からあぶり出して描くダンス・シアター。特に中盤以降の、身体を言葉遊びや会場空間に融け合わせるダンスが見事であった。シナリオ構築、大人数の振付の巧みさなど、演劇経験に基づく独自の個性と才能を持つ作家であり、一層の活躍が期待される。
	(関西参加公演の部) はるき ゆりさ 春木 友里沙	ほうむらともい だんこうえん かいぞく 法村友井バレエ団公演「海賊」における演技	法村友井バレエ団公演「海賊」は、ベテランから新人まで適材適所に配し、ロシアバレエの大作を見所の多いスペクタクルな作品に仕上げた。その主役メドレーの春木友里沙は、バリエーションやパ・ド・ドゥをアカデミックなダンス・クラシックの技術と適確な表現力を持って踊り全幕を通して存在感を示した。今後プリマバレリーナとして更なる活躍が期待される。

大衆芸能部門6件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(関東参加公演の部) 琉球芸能大使館	「五月九月」の成果	時は琉球王朝時代。聞き間違いから起こる使節接待のダブルブッキング騒動をウィットに富んだ喜劇として描いた。劇中劇の形で今年上演300年となる組踊「二童敵討」(抜粋)や「かぎやで風」などレベルの高い琉球の伝統芸能を堪能できる構成も秀逸であった。海上交易を通じて育まれてきた沖縄独自の文化の豊かさを改めて感じさせた意義も大きい。
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—
優 秀 賞	(関東参加公演の部) 内藤 和美	「内藤 和美 読み語り」の成果	表情が言葉の表面に付いてしまう朗読家が多い中、内藤和美の朗読は、常に言葉の奥にあるものとリンクする。つまり、物語の「内面」を確実に伝えてくれるのだ。久生十蘭「藤九郎の島」、菊池寛「身投げ救助業」という、生と死がダイナミックに交錯する2編の小説を選び、卓越した技術で物語の内面を表現し尽くし、もって他の追随を許さぬ高い境地を示した。
	(関西参加公演の部) 桂 梅團治	「桂 梅團治 芸歴四十周年記念独演会」の成果	師匠三代目桂春團治の十八番ネタを4席並べた独演会で、師の芸を忠実に受け継ぎながら、梅團治らしい無邪気さやとぼけた味わいが加わり、確かな力量を見せた。特に「鑄掛け屋」「祝い熨斗」は師の没後、精緻な芸風が影響してか、演じ手が少なくなってしまったが、その面影を残しつつ構成やオチを工夫し佳品とした。
	(関西参加公演の部) チョップリン	「蔵出しライブ vol.2」の成果	選りすぐりの8本のコント全てが予測不能な展開によって、日常の延長線上にある狂気と表裏一体の笑いや、些細な違和感に潜む人間の面白さや切なさなど、この二人ならではの世界観を見事に表現した。デビュー以来、関西のコント界を牽引してきたコンビの20周年にふさわしい公演として高く評価するとともに、更なる活躍も大いに期待したい。
新 人 賞	(関東参加公演の部) 藤山 大樹	「江戸手妻 東京公演2019」の成果	マジックの世界に「スター誕生」を予感させる意欲的なステージだった。おなじみの「蝶のたはむれ」「七変化」にはさらなる工夫が加えられ、創作「松風」も伝統に則った、無理のない新しさを生み出した。「和のジャズ」を意識したバンド「ALIAKE」とのコラボレーションも効果的で、継承者の少ない手妻の賞味期限がぐんと延びた。
	(関西参加公演の部) 桂 雀太	「桂 雀太 独演会」の成果	間とリアクションで妙味を見せ、緩急自在な話芸で観客を引き付けて爆発的な笑いへ導く力を発揮した。「胴乱の幸助」では人物を巧みに演じ分け、「壺算」ではアレンジを加えて噺を膨らませた。少々オーバーな表現も違和感なく、聞く者の想像を促す巧さが光った。ここ数年、進境著しい中、独自の世界を築いてきた成果を見せた。

令和元年度(第74回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加作品)

テレビ・ドラマ部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	日本放送協会	土曜ドラマ「サギデカ」	まず素晴らしいのは安達奈緒子の脚本で、主人公の女性刑事を演じる木村文乃の好演も相まって、リアリティあるサスペンスフルな刑事ドラマに仕上がっている。刑事側だけでなく、犯罪者側の論理もしっかりと描いているのが特筆すべきところで、これをテレビドラマでやるのは見事というしかない。
優秀賞	日本放送協会	土曜ドラマ「デジタル・タトゥー」	ネット上の誹謗中傷や個人情報の拡散が、大きな社会問題になっている現代において、まだ馴染みは薄い様々な問題を引き起こしている「デジタル・タトゥー」というテーマに正面から取り組んだ。独創性に満ちた脚本によって、ストーリーにリアリティを与えると共に、スピーディな演出でぐいぐいと観る者を引き込む、非常に見応えのある力作に仕上がっている。
	日本放送協会	「スローな武士にしてくれ ～京都 撮影所ラプソディー～」	最先端のデジタル映像技術に出会った、思いきりアナログで旧式の映画撮影現場。そのとまどいと模索をコミカルに描きながら、ものづくりの情熱の大切さを表現する快作に仕上げた。新しいデジタル映像のデモンストレーションを見せ場としつつも、全体に映画の旧作への畏敬やオマージュが散りばめられていて好感が持てる。
	東北放送株式会社	TBCテレビ 60周年記念ドラマ 「小さな神たちの祭り」	東日本大震災で家族全員を失い、震災の記憶が風化して行く世間に対し一見元気を装っているが、心の底では立ち直れない青年の物語。軽々とは語れない、とって重々しいのも、そこでファンタジーへ。際どい選択だったが、演出と演技の力で見事に再生の物語となった。災害からの心の復興にテレビドラマは何ができるか。その答えの一つを見せてくれた。

テレビ・ドキュメンタリー部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	BS1スペシャル「ボルトとダシャ～マンホールチルドレン20年の軌跡～」	モンゴルの首都ウランバートルでマンホール暮らしをしていた2人の少年ボルトとダシャ。彼らの波乱万丈の人生を20年にわたって追う。急激な経済成長を遂げ、格差が広がるモンゴルは、現代社会の縮図でもある。その片隅で懸命に生き抜く人間の弱さとたくましさを見事に描き出した「大河ドキュメンタリー」と呼ぶべき大作である。
優秀賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	BS1スペシャル「ボクの自学ノート～7年間の小さな大冒険」	自らテーマを決めて学ぶ「自学」という小学生の課題を、それが課題でなくなった後も中学卒業まで続けてきた1人の少年。普通なら「変わった子」で済ましてしまい、同調圧力を掛けがちな日本社会の中で、彼の個性を伸ばしてやろうと、時間を割いて対応する周囲の大人たちの姿が描かれる。教育のあるべき姿について自問させられる作品だ。
	株式会社CBCテレビ	「土がくる～規制なき負の産物の行方」	愛知県瀬戸市の住宅地に現れた高さ3mの盛土。その正体は出处不明の建設残土。騙されて無償で土地を提供してしまった夫妻と、業者や行政との闘い。一方、三重県尾鷲市には大型船で残土が運び込まれていた。環境悪化を恐れる住民と、地域発展には必要な事業だと断言する業者。2つの話を軸に建設残土問題を1年余りにわたって追った秀作である。
	ふくい 福井テレビジョン放送株式会社	ふくい 福井テレビ開局50周年記念番組 「聖職のゆくえ～働き方改革元年～」	今、教員の長時間労働が深刻な問題になっている。多くの教員の残業が、過労死ラインの月80時間を超えていた。背景にある50年近く前に制定された「給特法」を巡る問題点を検証しながら、置き去りにされてきた教員の働き方改革に一石を投じた意義ある番組だ。この国の将来が危ういと警鐘を鳴らしている。

ラジオ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(ドラマの部) にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	FMシアター「エンディング・カット ～わたしがえらんださいごのかぞくじかん～ ～私たちが選んだ最後の家族の時間～」	納棺の際に遺族との「最後の家族の時間」を生み出すエンディングカットを軸に、美容師の両親と娘の心の動きを丁寧に描き、今の時代における別れを見つめた対話劇。優れた脚本を土台に力のある役者陣が心を込めて演じ、そこに研ぎ澄まされた音響効果が添えられて、聴く者の創造力をかき立てる静かで力強い作品が創出された。
優 秀 賞	(ドキュメンタリーの部) まいにちほうそう RKB毎日放送株式会社	すくらっち きべつ へいせい 「SCRATCH 差別と平成」	障害を持つ息子の父親でもあるディレクターが、2016年に、相模原市の障害者施設で起きた連続殺傷事件の被告にコンタクトを取り、6回にわたって拘置所で面会。自らの行為を肯定し続ける被告の主張に対し、ディレクターが息子との日々を振り返りながら対峙することで、現代社会に存在する差別感情を問うた骨太な作品である。
	(ドキュメンタリーの部) あおもりほうそう 青森放送株式会社	「あなたと見たふうけい ～めのみえないほつえのしゅんかきゅうとう～ ～あなたと見た風景 ～目の見えない初江さんの春夏秋冬～」	青森放送は、視覚障害者が取材して出演する番組「RAB耳の新聞」を長年放送。出演者の内田初江さんが78歳で番組を引退したのを契機に、初江さんに密着して日常を伝えた。雪の多い青森では、点字ブロックが隠れる、雪が音を消してしまうなど見えない苦労があった。音で伝えるラジオの特性を生かした優れた番組として高く評価する。
放送 個人賞	(ドラマの部) ひでしま ふみか 秀島 史香	ぶんごう 「文豪ROCK！～ねむらせないよみきかせ みやざわけんじへん ～文豪ROCK！～眠らせない読み聴かせ 宮沢賢治編」の朗読	宮沢賢治の古典を新旧のロックの名曲と共に秀島氏一人の朗読でつづる。卓越した朗読技術はもとより、登場人物のセリフを憑依するがごとく多彩に表現し、さらに、Pink Floyd、Yes、U2など、曲ごとに違うリズムに賢治の語感をあたかも五線紙に原稿用紙を融合させるかのように表現している。音声表現としての朗読の新境地を開いた。

レコード部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	クレアシオン	こてんしじゅうそうだん 古典四重奏団「シヨスタコーヴィチ 弦楽四重奏曲全集」 げんがくしじゅうそうきよくぜんしゅう	シヨスタコーヴィチは、ソ連という社会主義体制の国家で活動した。彼の音楽と精神の関係を知ることは容易ではないが、古典四重奏団は彼の15曲の弦楽四重奏曲を取り上げて、作品の本質に肉薄するような見事な演奏を実現してみせた。高い演奏技術はもちろん、楽譜の入念な研究、作曲家への共感、そして芸術的想像力が実を結んだ希有な名演と言えよう。
優 秀 賞	サクソフォン×邦楽器 げんだいおんがくじっこういんかい ×現代音楽実行委員会	おおいしまきのり すもーく 「大石将紀／SMOKE」	サクソフォンという、現代音楽において、より新しい楽器奏法と創作が求められる領域で、この10年余の間に作曲された作品による当アルバムは、まさにその目的にかなうものである。新作が目されることで、演奏の可能性が広がることを考えれば、当アルバムは、更なる新作を生み出す契機にもなるであろう。
	株式会社キングインターナショナル	むぼんそう 「イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」 ぜんきょく	選曲から手稿譜の調査で得られた知見を生かした解釈と演奏まで、丁寧に作り込まれた本CDは、オランダ・マーストリヒト音楽院教授で国際的に活躍しているヴァイオリニスト、米元響子の初のアルバムである。どの曲も表現が明快で、技術力、表現力ともに秀逸。近年になって発見された未完のソナタハ長調の収録も貴重である。
	公益財団法人日本伝統文化振興財団	のさおてつや きねやせいほうさくひんしゅう 「野澤徹也／杵屋正邦作品集」	杵屋正邦は、長唄三味線の演奏家・作曲家であり、三味線のほか箏や琵琶、合唱曲など千数百の作品を残している。本CDは、代表的な三絃(三味線)作品8曲を選ぶ。主演奏者の野澤徹也は、特定流派に属さず幅広く活動している。同人の日頃の演奏活動を生かした精緻で高い技量の演奏により、現代邦楽のCDとして高い完成度を示した。